

# 子育て チャンネル

東川町立東川小学校校長  
奥山 富雄  
OKUYAMA TOMIO



私は昭和22年に名寄市の農家に、8人兄弟の末っ子として生まれました。小学校時代はたいへんな恥ずかしがり屋で虚弱体質、元気に育つかと両親はとても心配したそうです。小学校時代の記憶はほとんどないけれど、かばんを忘れて登校して叱られたり、泣き虫でいつもめそめそしていた弱い存在であったようです。中学校時代は、農作業を手伝わされるのが嫌で、学校から帰ると真っ先に釣り竿を持って川に行つて遊んでいました。

さて、私の少年時代はさておいて、私自身の育ちと、2人の子の親としての行いを振り返りながら、話を進めます。

## あいさつのススメ

東川小学校では、明るく元気なあいさつを今年の目標の一つにしています。今月から、児童会の子どもたちが中心になって、朝、登校したら、5人以上の人と握手をしながら元気にあいさつを交わす」という具体的な作戦にでました。それ以来、朝、出会うときに握手を求めてにこやかに寄つてきてくれる子が増えました。ついでにひと言ふた言、お話をします。「あいさつは人間関係の第一歩」といいますが、全くその通りと感じるひとときます。おかげで、その日二日を明るくスタートできます。

書物で読むと、人以外であいさつを交わす動物はチンパンジーただだそうですね。チンパンジーは握手やお辞儀、お互いに口づけもするとありました。チンパンジーに負けることなく、きちんとあいさつができる人に育つよう、家庭で小さいころからのしつけが大切です。私も小さいころの気弱さが影響して、あいさつは上手ではありませんが、努力している毎日です。

## 家訓のススメ

「嘘はつかない」「弱いものの見方をする」「人に迷惑をかけない」

私が親からよく言われたのは、この三つでした。家訓ではなかったですが、大切なこととして教えられました。

今思うと、人としてあるために大切な点だと思えます。これができないと、人としての恥。」「嘘をつくのは人として恥ずかしいこと」「弱いものの立場で考えてやれないのは人として恥」「人に迷惑をかけて平気なようでは人ではない」などとよく言われたものです。

しかし、私は何度もこの約束を守ることができず、そのたびに心配そうな親の顔を思い浮かべました。

## 社会には守るべき規則があります。

家庭にも家訓があつて、これを小さいころから徹底すると、自己を統制する心や我慢する気持ちが育ちます。それぞれの家庭に、我が家の家訓、約束

束事があつて、機会あることに行いを反省することは、家族の絆を強めることにつながります。

## 自己決定のススメ

私は、カツ丼とカレーライス、どちらを食べたいか決められませんでした。

私の少年時代は大家族であり、食べ物希望など一度も聞かれたことはありません。だから、いつも与えられたものを与えられた量だけ食べる習慣となりました。年ごろになって、仲間と食事する際、「何にする?」「と聞かれても、結局は何でもいいというのが

# 「三つのおすすすめ」

(あいさつ・家訓・自己決定)

私の結論でした。

今は、自己主張が強すぎてトラブルになりそうな子どもと、全く自己決定できない子の両極端のように見えます。それぞれの家庭で、子どもの考えて決めさせ、不十分なながらも実行させること。このことで子どもに自分で決める力が身につく、自立する力が身につけていきます。

今の子どもたちが、将来大人になつたとき、社会のためにがんばる人となるよう願つて、3つの「ススメ」を書きました。

奥山富雄 おくやまとみお  
東川町立東川小学校校長  
名寄市知恵文で生まれる。  
家庭では大学生と社会人の子をもつ2児の父。子どもを喜ばせるためにはじめた昆虫採集であったが、いつしか自分が魅入られ、現在も蒐集を続ける。他に山野草の栽培などにも愛情を注ぐなど多様な趣味を持ち、いまだ好奇心旺盛な校長先生

